

電源側から負荷側の配線路探査ができる

電源側・負荷側双方向配線路探査器ロードチェッカ

1

探査・測定機器

LC-B形



■特長

- 活線状態、死線状態どちらでも電源側(トランス側)から負荷側(分電盤側)の接続確認が一人で簡単にできます。
- 負荷側から電源側の探査もできます。
- 音と光で表示するため判定が容易です。
- 信号漏洩防止ユニット(オプション)で探査回路以外への信号漏れを防止します。

■定格および仕様

送信器 (形名: LC-B-T)

使用電圧範囲	AC100~240V±10% 50/60Hz	
信号周波数	4.2kHz	
信号電流	電源側からの負荷探査時 7mAP-P (約1.6秒通電、約1.6秒停止) 負荷側からの電源探査時 70mAP-P (約1.6秒通電、約1.6秒停止)	
接続可能導体径	φ32以下 (IV線 325mm ² 迄)	
電源	100VACアダプタ (標準装備) または単3アルカリ電池×8本	
ACアダプタ定格	AC100V/DC12V	
電源表示灯	電池チェック用LED (緑色) 点灯	
電池使用時	電池寿命	約5時間
	電池寿命表示	寿命予告:電池チェック用LED (緑色) 点滅 寿命表示:電池チェック用LED消灯
外形寸法 (mm)	送信器	199 (H) × 117 (W) × 92.5 (D)
	クランプCT	154 × 54 × 21 (接続リード線除く)
	ACアダプタ	84 × 52 × 60 (電源コード除く)
質量	送信器	約450g
	クランプCT	約180g
	ACアダプタ	約345g

共通

使用温度範囲	-10~50°C
使用湿度範囲	相対湿度95%以下
保存温度範囲	-20~60°C

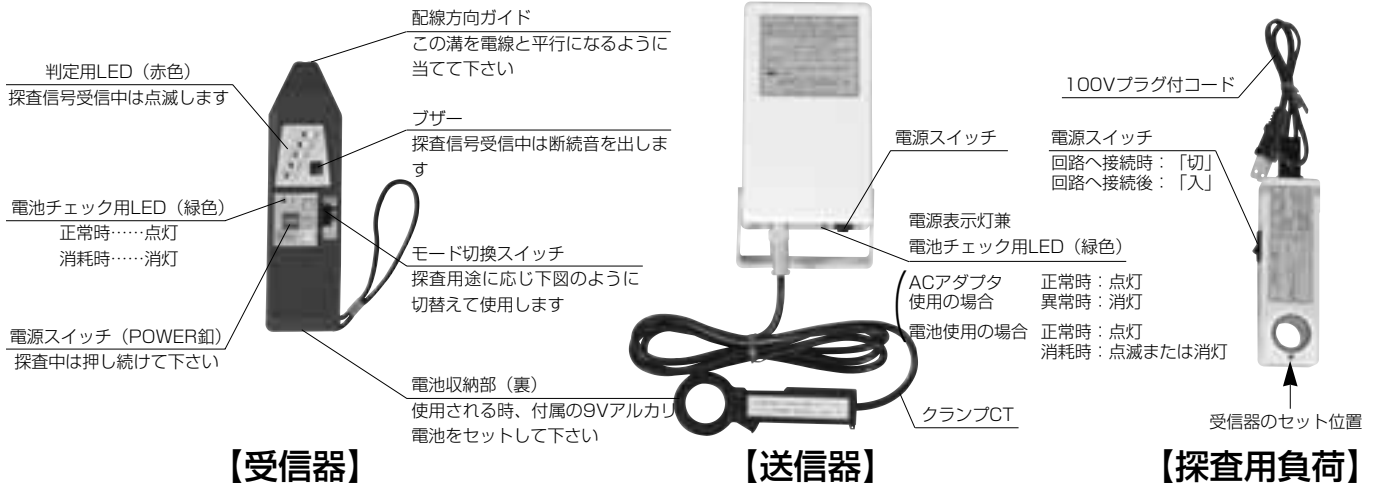
探査用負荷 (形名: LC-B-L)

使用電圧範囲	AC100~240V±10% 50/60Hz
消費電力	20VA以下
外形寸法 (mm)	142 (H) × 40 (W) × 25 (D) (接続コード除く)
質量	約87g

受信器 (形名: LC-B-R)

探査方式	信号電流による磁束検出	
モード切換	電源側からの負荷探査時	「探査負荷」と「その他」の2段切替
	負荷側からの電源探査時	「電線」「低」と「電線」「高」と「ブレーカ」の3段切替
出力	LED (赤色) による5段階表示点滅とブザー断続音 (約3回/秒)	
電源	9Vアルカリ電池×1本	
電池寿命	約10時間	
電池寿命表示	電池チェック用LED (緑色) 消灯	
外形寸法 (mm)	191 (H) × 52 (W) × 33 (D)	
質量	約143g (電池含む)	

各部の名称



受信器のモード切換スイッチの用途



モード切 換		用途 (探査対象)	備 考	感 度
電 源 探 査	電 源	低	電線に直接当てて探査する場合 電線に直接当てて探査する場合	A
		高		B
	ブ レ ー カ	ブレーカ自身のカバー上面で探査する場合		A
負 荷 探 査	探 査 負 荷	探査用負荷に直接当てて探査する場合	電源側から負荷を 探査する場合	B
	そ の 他	電力量計等で探査する場合		C

- 注1: 「ブレーカ」モードは2Pおよび3Pブレーカ探査専用ですので、他の探査には使用できません。(センサコイルの方向が他と違います)
- 注2: 1Pブレーカの探査は「ブレーカ」モードではできません。必ずモードを電線の「低」または「高」にし、1Pブレーカへの接続電線で探査してください。
- 注3: 探査時、上記選択モードで、判定用LEDの点滅が2個以下の場合、1ランク感度の高いモードへ切替えて探査してください。感度はA→B→Cと高くなります。(「ブレーカ」モードは除きます)

操作手順

1. 活線状態での電源側からの負荷探査 (探査用負荷での探査：基本探査方法)

チェック略図	操 作 手 順	判 定
	<ol style="list-style-type: none"> 送信器にクランプCTと100VACアダプタ(電池電源の時は不要)を接続します。 クランプCTを探査する系統の電線(単相2線式の時は片方の線へ、単相3線式の時は中性線へ、三相3線式の時はS相へ)へ装着し、送信器の電源スイッチを「入」にして下さい。 探査用負荷を探査するコンセントまたは端子部へ接続します。(接続する時、探査用負荷は必ず電源スイッチを「切」にして行って下さい。) 探査用負荷の電源スイッチを「入」にして下さい。 受信器のモード切換スイッチを「負荷探査」の「探査負荷」にセットします。(図①-1) 受信器のPOWER釦を押したまま、受信器の先端を探査用負荷の指定箇所(CHECK POINT)へ当てて下さい。(図①-2) 探査するコンセントまたは端子部へ順次探査用負荷を接続し、③～⑥の手順で探査して下さい。(探査用負荷を取外す時は、必ず探査用負荷の電源スイッチを「切」にして行って下さい。) 	<p>受信器表面の判定用LEDが、3～5ヶ約1.6秒間に4～6回点滅し、次の1.6秒間は休止を規則正しく繰り返せば、送信器のクランプCTを装着した電源に接続されています。ブザーは、判定用LEDの点滅に同期して断続音(ピピッという音)を發します。</p>
	<p>注1: 三相3線(単相3線)式の場合、S相にクランプCTを装着した時は、R-S、S-T間が探査できます。R-T間を探査する場合は、R相またはT相へクランプCTを装着して下さい。</p>	<p>図①-1</p> <p>図①-2</p>

2. 活線状態での電源側からの負荷探査

(電力量計での探査：アパート・マンション等で外部にコンセントがない場合の探査)

チェック略図	操作手順	判定
	<ol style="list-style-type: none"> 送信器にクランプCTと100VACアダプタ(電池電源の時は不要)を接続します。 クランプCTを探査する系統の電線(単相2線式の時は片方の線へ、単相3線式の時は中性線へ、三相3線式の時はS相へ)へ装着し、送信器の電源スイッチを「入」にして下さい。 受信器のモード切換スイッチを「負荷探査」の「その他」にセットします。(図②-1) 受信器のPOWER釦を押したまま、受信器の先端を電力量計の電圧コイル付近に図示の様に当てて下さい。(図②-2、②-3) 受信器を当てる角度、位置により検出感度が変わりますので、判定用LEDが3～5ヶ点減する様にして下さい。 探査する電力量計を順次④の手順で探査して下さい。 	<p>受信器表面の判定用LEDが、3～5ヶ約1.6秒間に4～6回点滅し、次の1.6秒間は休止を規則正しく繰り返せば、送信器のクランプCTを装着した電源に接続されています。ブザーは、判定用LEDの点滅に同期して断続音(ピッピッという音)を發します。</p>
	<p>図②-1 図②-2 図②-3 左側面でも探査できます。</p>	

3. 活線状態での負荷側からの電源探査 (コンセント、端子等の電源ブレーカの探査)

チェック略図	操作手順	判定
	<ol style="list-style-type: none"> 送信器にクランプCTと100VACアダプタ(電池電源の時は不要)を接続します。 探査用負荷を探索するコンセントまたは端子部へ接続します。 (接続する時、探査用負荷は必ず電源スイッチを「切」にして行って下さい。) 探査用負荷の電源スイッチを「入」にして下さい。 送信器のクランプCTを探査用負荷の貫通穴へ装着します。(図③-1) 送信器の電源スイッチを「入」にして下さい。 受信器のモード切換スイッチを「電源探査」の「ブレーカ」にセットします。(図③-2) 受信器のPOWER釦を押したまま、受信器の先端を電源側ブレーカに順次当てて下さい。(図③-3) <p>注1：1Pブレーカの探査は「ブレーカ」モードではできません。 モードを「電線」「低」または「高」とし、1Pブレーカへの接続電線で探査して下さい。</p>	<p>受信器表面の判定用LEDが、3～5ヶ約1.6秒間に4～6回点滅し、次の1.6秒間は休止を規則正しく繰り返せば、送信器のクランプCTを装着した電源に接続されています。ブザーは、判定用LEDの点滅に同期して断続音(ピッピッという音)を發します。</p>
	<p>図③-1 図③-2 図③-3</p>	

4. 死線状態での電源側からの負荷探査（探査用負荷での探査）

チェック略図	操作手順	判定
<p>変圧器 ブレーカ「切」 短絡線 送信器 分電盤 100Vコンセント または端子 全て反応 (注1) 探査用負荷 受信器</p>	<ol style="list-style-type: none"> 送信器にクランプCTと100VACアダプタ（電池電源の時は不要）を接続します。 探査する系統の相間を短絡線で短絡して下さい。 クランプCTを短絡線へクランプし、送信器の電源スイッチを「入」にして下さい。 探査用負荷を探査するコンセントまたは端子部へ接続します。（接続する時、探査用負荷は必ず電源スイッチを「切」にして行って下さい。） 探査用負荷の電源スイッチを「入」にして下さい。 受信器のモード切換スイッチを「負荷探査」の「探査負荷」にセットします。（図④-1） 受信器のPOWER釦を押したまま、受信器の先端を探査用負荷の指定箇所（CHECK○ POINT）へ当てて下さい。（図④-2） 探査するコンセントまたは端子部へ順次探査用負荷を接続し、④～⑦の手順で探査して下さい。（探査用負荷を取外す時は、必ず探査用負荷の電源スイッチを「切」にして行って下さい。） 短絡線で短絡した相に接続された負荷を探査します。 探査相間短絡線は、探査終了後クランプCTを取外す時に必ず取外して下さい。 <p>注1:三相3線（単相3線）式の場合、R-S相を短絡した時はR-S相間が探査できます。S-T相を探査する場合はS-T相を短絡、R-T相を探査する場合はR-T相を短絡してクランプCTを短絡線へ装着して下さい。</p>	<p>受信器表面の判定用LEDが、3～5ヶ約1.6秒間に4～6回点滅し、次の1.6秒間は休止を規則正しく繰り返せば、送信器のクランプCTを装着した電源に接続されています。ブザーは、判定用LEDの点滅に同期して断続音（ピピッという音）を發します。</p> <p>図④-1</p> <p>図④-2</p>

■キット明細



キット明細

受信器×1
 送信器×1
 探査用負荷×1
 クランプCT×1（送信器用）
 100Vプラグ付コード×1
 クリップ付コード×1
 ACアダプタ×1（送信器用）
 9Vアルカリ電池×1（受信器用）
 キャリングケース×1
 取扱説明書×1

■オプション

信号漏洩防止ユニット（SBU-A-4.2K）



外形寸法：88(L)×130(W)×170(D)mm
 質量：約985g
 コード長さ：約1m

※使用方法はP1-17をご参照下さい。

■標準価格表

形名	標準価格		備考
	税込	税別	
LC-B	103,110	98,200	

オプション品

品名	標準価格		備考
	税込	税別	
信号漏洩防止ユニット	38,120	36,300	